

北海道立市民活動促進センターは、営利を目的としない、地域の様々な課題を自ら解決しようとする道内の市民活動を応援しています。

特集

道内で活躍する市民活動を紹介します

平成 24 年度の当センター事業で、道内で活躍している市民活動団体の活動を集録した「活いきまちづくり～北海道の市民活動レポート 2012」(当センターホームページで閲覧できます)を作成しました。その一部を抜粋して順次ご紹介しています。

今回は「NPO法人フリースクールどんぐり広場(江別市)」「パソコンボランティアプラザ室蘭・登別(室蘭市・登別市)」、「ドリームーン(釧路市)」の 3 団体の活動をご紹介します。

NPO法人フリースクールどんぐり広場(江別市)

～ 不登校児の回復教育に力を注ぐ ～

いじめが無くならないのと同様に、何らかの心の葛藤で学校に行けなくなる不登校の子供も後を絶たない。むしろ増加傾向で、しかも低年齢化している。心の問題だけに解決はなかなか難しいが、肝心なのは周囲の大人がいち早く気づき、対処することだという。ところが小・中学生を対象とした回復、指導機関はほとんど無いのが実情。

こんな現状を、実際に不登校高校生の教育に当たっていた男女 2 人の高校教諭が痛感し、「ならばその役割を自分たちが担おう」と、結婚して教職を辞め、

2 人だけで、主として小・中学生の不登校児の回復教育に乗り出した。

江別市文京台に開設された NPO 法人「どんぐり広場」がそれ。開設ほぼ 5 年で 20 人以上の子供を立ち直らせており、その指導のあり方が、教育専門家や地域の人たちから高い評価を得てきている。



図画の時間、立派に書けた動物の絵を自信たっぷりに頭上に掲げる児童

■ 広場開設 ユニークな学習展開

「どんぐり広場」を開いたのは、不登校や登校拒否高校生を受け入れている星槎国際高校(札幌)で、実際に不登校生の復帰指導に当たっていた一色恵太、摩弥両教諭。恵太さんは体育担当で 6 年、摩弥さんは家庭科を受け持って 5 年指導に携わったが、その間痛感したのは「不登校生の回復を図るには高校生の年齢(15～18 歳)では遅すぎる。もっと前の小・中学生の時から始めなくては」の思い。

この考えで 2 人の意見は一致。結婚、退職して開いたのが「どんぐり広場」だ。2008 年(平成 20 年)春のこと。場所を文京台に選んだのは、すぐ近くに授業には欠かせない豊かな自然―野幌原始林があるほか、学校教育の専門機関・道立教育研究所があって何かの折に相談に乗ってもらえ、さらに体育館が併設しており、体育実習に貸してもらえるとという“地の利”から。

そんな訳で「広場」には、学校や塾のような校舎はなく、NPO 法人の事務所を兼ねる自宅の座敷が教室といえ教室。

勉強の仕方も一風変わっている。ある日の恵太先生の基礎学習の時間。

先生「水は飲んだり手を洗ったりするね。ほかにどんな使われ方があるかな？」 (次頁へ続く)

NPO法人フリースクールどんぐり広場（江別市）

児童「お風呂や洗いに」

先生「うん、そうだね。ほかには？」

児童「う～ん、トイレとか…」

ぐっとつまるところで先生は、アフリカの草原の水辺でたくさんの動物が集まって水を飲んでいる絵を広げ、「動物は水無しでは生きてゆけないんだ。人間も同じだよ」と説明。次にゴツゴツした月の表面の写真を取り出し「ほら、ここには動物や植物が見当たらないね。水が無いからだよ」と進む。そのやり取りは先生対生徒ではなく、ほとんど親子の語りといったおもむき。

勉強に飽きたな、という様子が見えたらすぐ中止し、連れだって近くの野幌自然公園へ。ここでは自然に接しながら草木や昆虫、動物の観察を行い、オブジェなどの制作のための落ち葉や小枝拾い。一連の流れは一応、国語の「テーマ学習」としているが、この展開で国語だけでなく理科、社会、算数、体育など、興味を持たせながら多科目学習に広げていることがうかがわれる。

雨や風で外に出られない時や午後は、妻の摩弥先生の出番。料理や菓子作りを一緒に体験、保管しておいた落ち葉や小枝でリースや壁掛けなどの図工に挑戦。台所に立って「おはぎ」や「ケーキ」づくり、時には「うどん打ち」に興ずる姿は、本当の母娘と一緒に料理づくりを楽しんでいるよう。そこには、生活への興味・関心を広げながら、五感で感じ、学ぶ感性を育むという、「広場」の活動の狙いが余すところなくちりばめられている。



「私だってできるわよ」…。お母さん先生の指導で新しい料理づくりに挑戦する女子生徒
そこには母娘にも似た交流が生まれている

ちなみにこれらの回復、指導に当たる先生スタッフは一色夫妻の2人だけ。自然探訪や料理実習などの科目によっては、夫妻の4歳と1歳の子供と、7歳の犬・ラブラドルレトリバー1匹も参加。たまに、言葉の専門家として、星槎国際高校校長で、道立特殊教育センター所長でもある跡部敏之さんが加わることもある。

■ 遠征して農業体験、工場見学も

このほか「広場」では、経験、体験を広めるために石狩、空知の農家や木工場、食品工場などの物づくり現場へ年間数回、みんなで出かけ、実習したり見学して社会体験を積ませている。また、北海道フリースクールネットワークにも加わって、不登校児の対応に関する情報交換や、集団研修会、施設見学会などにも参加して見聞を広げている。

一方運営の方は、通う子どもたちからの学習料と道共同募金会、コープ札幌社会福祉基金、道新社会福祉振興基金からの助成金でまかなっているが、夫妻2人が教師をしていた時の収入に比べれば大幅な減収。2010年（平成22年）にNPO法人に認証されたので、広報や賛助金の面で少し楽になったが、生活はいぜんぎりぎり。講演や原稿を書く副業をしてしのいでいるものの、台所が苦しいことにならない。

それでも夫妻は「うちで学ぶことで元気になってゆく姿を見るのはとっても嬉しい。親御さんの表情も喜びに変わりますしね。その達成感は何物にも替えられない感動です。将来はスタッフをもう少し増やして、幼くして人生に挫折しかかった子どもたちを1人でも多く救ってあげれば本望です」と決意を語っている。

■ 連絡先

〒069-0835 江別市文京台南町32-4
NPO法人フリースクールどんぐり広場
代表：理事長 一色 恵太
事務局長 一色 摩弥
TEL 011-777-8543
E-mail : dongurihiroba@live.jp
URL : <http://www8.plala.or.jp/>

パソコンボランティアプラザ室蘭・登別（室蘭市・登別市）

パソコンボランティアプラザ室蘭・登別 （室蘭市・登別市）

～ パソコンバリアフリーを目指して ～

「障がいを持っている人でも、パソコンやEメールという道具を使えば、普通のコミュニケーションができるのです。いわば、パソコンバリアフリーですね」

パソコンボランティアプラザ室蘭・登別（以下 ボランティアプラザ）が行っている障がい者向けパソコン利用のためのオープンサポート（支援教室）で、代表の西野美樹子さんはそう話す。

月2回行われているこのサポートは、ユーザー会員（教わる会員）と同じ人数だけサポート会員（教える会員）が参加、マンツーマンで行われるのが特徴である。毎回飲物やお菓子などがふるまわれ、和やかな雰囲気で行われている。

この日は、「室蘭びあ 216」（障害者福祉支援センター）の一室で、ユーザー会員5人、サポート会員6人がそれぞれパソコンに向かっていた。

西野さんが直接教えている相手は、視覚障がいを持つ伊達市在住の女性（30代）。ネット上にある音声データの小説を集めたいと、一年半ほど前からサポートを受けた。

「いまチャレンジしているのは、動画投稿サイトにある音楽をダウンロードすることです。いろいろな音楽を楽しみたいし、それに、もっと推理小説なんかも読みたいの

ですね」

彼女は楽しそうに語ってくれた。

その隣で西野さんは、力説する。



「パソコンのバリアフリーです」と、代表の西野さん



活動が行われている「室蘭びあ216」（障害者福祉支援センター）

「聴覚に障がいを持つ人は、割とパソコンを扱いやすいですが、視覚障がいの場合は、サポートがないと難しいのです。例えば、パソコン用語は横文字が多いので、『クリックする』と言われても何のことか分かりません。だから、そこから始めないとけないのです」

月2回のオープンサポートのほか、西野さんは月1回ほどのペースで彼女の自宅にも訪れて支援している。そのほか、パソコンのトラブルや質問などがあったときは、その都度訪問しているという。

■ 個人のペースに合わせて支援

このボランティアプラザを発足させた経緯について、ボランティアプラザの登別地区を担当する榎本吉幸さんが説明する。

「室蘭市が実施していたIT講習会の講師をしたことがあり、そのときに視覚障がいを持つ人がいたのです。その人のために特別指導したのですが、講習会はその場限りで終わってしまいます。そうした人をフォローしていくために、何かやらなければならないと思ったのです」

そして、榎本さんは西野さんらと共に、2003年4月にボランティアプラザを発足させた。まず始めたのが、オープンサポート。

講義形式では、それぞれのニーズが違う障がい者に対応できないと、マンツーマン方式とした。基本

パソコンボランティアプラザ室蘭・登別（室蘭市・登別市）

的に視覚障がい者には、音声ソフトとキーボード操作を教える。手に障がいがある人にはキーボードの設定変更などについて指導、聴覚障がい者に対しては筆談などで対応して、問題点を解決する。

オープンサポートは毎月第1土曜日に「登別しんた21」、第3土曜日には「室蘭ぴあ216」で、どちらも午後1時半から午後3時半まで、無料で行われている。また、月1回（第1月曜日）、高齢者向けパソコン講座も実施している。

そのほか、訪問サポートとして、直接訪問するタイプの支援もある。ただこの場合は、交通費（1000円）だけを受け取っているという。



障がい者のためにパソコンを教えるオープンサポート

■ 要約筆記やスカイプも活用

ボランティアプラザでは、2006年から要約筆記の活動も始めている。要約筆記とは、講演会などでの話を文字化してスクリーンに映し出すシステム。聴覚障がい者や高齢者へのサポートとして広く利用されているが、道内での知名度はまだ低い。要約筆記の経験のある会員の入会がきっかけとなって、パソコンの技術を耳の不自由な人に生かせれば、と始められた。

専用ソフトを使い講演者の話を聞きながら、会員数人がそれぞれのパソコンで1文ずつ交互に打ち、スクリーンに映し出す。活動場所も徐々に増えており、室蘭市や登別市、伊達市での福祉行事や、病院での生活習慣病教室で実施されている。

また、2010年からは、スカイプ（インターネットを利用したテレビ電話）を使って自宅にいてもサポートを受けられる活動を行っている。

「移動するための時間を短縮できますし、いつでもサポートすることができるので、かなり有効だと思います」

■ 若いサポート会員に期待

現在、ボランティアプラザの会員は、サポート会員が17人、ユーザー会員が33人。ユーザー会員の3分の1は視覚障がい者である。サポート会員は、80代の男性から10代の高校生までと幅広い。

「ただ、17人のサポート会員のうち、頻繁に参加できるのはその半分ほど。次の世代を育てることが今後の課題でもありますから、特に若い人には頑張ってもらいたい」

西野さんは、声に力を込める。

サポート会員の一人である高校2年生の水野夢樹（ゆうき）君は、ネットでこの活動のことを知って、「少しでも分かりやすくパソコンを教えたい」と始めた。今年は少し参加する回数は減ったが、去年は毎回参加していたという。

水野君から、オープンサポートで手ほどきを受けている60代の女性は、メールに画像を付けて、それを送信するといった課題に取り組んでいた。

「親切に教えて頂いて、ありがたいですね」と、女性は嬉しそうに言う。

そんな2人を、榎本さんも、西野さんも、満足げに見守っていた。

■ 連絡先

〒051-0028 室蘭市西小路町5-13
パソコンボランティアプラザ室蘭・登別
代表 西野美樹子
TEL/FAX：0143-23-8440
Email：nishinot@lily.ocn.ne.jp

ドリームーン（釧路市）

ドリームーン(釧路市)

～ 少ない人数で吹奏楽を楽しむ ～

ソロやアンサンブルの演奏を楽しむことを目的として釧路市で活動する団体が「ドリームーン」。代表の月見和史さんは、大人数でなければ吹奏楽の演奏を楽しむことができないという固定した考えを排し2000年12月に「ドリームーン」を結成、金管五重奏からスタートした。

「学校のスクールバンドなどでは、何十人というある程度の人数が確保できなければ楽器演奏が続けられないと教わってしまいます。そうではなく、小さな編成でも、あるいは通常出版されている楽譜に書いてある編成とは違う組み合わせでも演奏は楽しめます。1人でも少人数でも続けられることを伝えたい」と結成の動機を語る。

サークルではそこに所属して、固定したメンバーで演奏会などを行う形態をとるが、ドリームーンは、まず企画ありき。その度に一緒に演奏したいという参加者を募って行っている。中心メンバーは20人いるが、このメンバーのほとんどが企画に参加する。

釧路市内の北大通にあるバーBROSのライブで演奏を初披露したのが活動のはじまり。2002年には、ソロ、アンサンブルの曲を持ち寄って、気の合う仲間同士が気軽に演奏できる場を設けたいと初の自主コンサート「音楽は友だち！！今日は気ままな音友(おとも)立ちコンサート」を開催、中学生も参加するなどして年1～2回、通算8回行われた。

2003年には釧路市で人が最も集まるといわれる「くしろ港まつり音楽パレード」に初の社会人バンドとして参加、中高生と一緒に出場し現在も継続して参加している。次の年には、釧路地区マーチング(吹奏楽で動きながら演奏すること)コンテストにゲスト出演するなど様々なイベントで一役買うようになっていった。

しかし、2007年から2008年の2年間は、活動休



釧路地区マーチングコンテストに参加したときの様子

止に追い込まれることに。転勤や結婚を機に初期メンバーが釧路を離れるなどして、演奏する際の最低限の人数が確保できず活動ができなかったためだ。ただ、それでも活動に共感した人たちが楽器を持ち寄って一緒に参加したことにより、マーチングコンテストのゲスト出演は続けることができた。

■ 目指すは親子一緒のステージ

大きな変化が訪れたのは2009年。この年にずっと空席だったトランペットに原田康平さんが加入したことによって新たなスタートを切ることができた。

「そこから再スタートしたことが今につながっています。原田さんと出会わなかったら今はないんですよ。2年間の活動休止の前と後では全く別のバンドです。コンセプトこそ同じですが、活動している量と質ではすべて違いますね」と月見さんは振り返る。

この年、3年ぶりにアンサンブルコンクールに出場したのを機に、自分達の技量を分かりやすく伝えるため、コンクール出場に力を入れ始めた。次の年の2010年にはアンサンブルコンクールで初めて釧路地区で代表になれたことから、メンバーに自信と活気が生まれイベントにも積極的に参加するようになった。

(次頁へつづく)

ドリームーン（釧路市）



釧路みなと祭り「音友だち広場」。小さな子供たちにはドラムや鉄琴など。たたくと音が出る楽器が好評

たまたま、その年にくしろ港まつりの北大通歩行者天国の一区画でイベント提案を持ちかけられ、「音友だち広場(楽器体験コーナー)」を開催。楽器に触れたことのない子供たちやかつて楽器に親しんでいた大人たちに演奏の楽しさを思い出してもらおう企画だ。

「親子で参加した人たちは、お父さんかお母さんのどちらかが楽器演奏の経験者であることがほとんどでした。子供が興味を持つことをきっかけに、親御さんたちも演奏を再開するようになってもらいたい」(月見さん)

この年には「プラス大好き!!」と銘打った連続企画も初開催。毎回違ったテーマを徹底的に追及し、プログラム、演奏、演出も含めて表現する自主コンサート。それまで行っていた「音友だちコンサート」とは全く異なるコンセプトの自主コンサートに切り替えたため、タイトルも一新した。一方、音友だちコンサートの誰もが気軽に参加できる雰囲気忘れず引き継がせるために、港まつりで行っている楽器体験コーナーのタイトルには「音友だち」を使ったという。

■大切なのは“楽しい”を追求すること

途中2年間ほどの活動休止期間があっても10年以上続けられたのにはどんな秘訣があるのか。「単純に“楽しい”という理由しかありません」月見さんは断言する。

“楽しい”という感じ方は、人それぞれに違うが、メンバー間では自分が楽しいと思うことを追求すること、他人が楽しいと思ったことは尊重することという2つは守るようにしているという。それこそが会のコンセプトである。

「上手、下手という技術とは別に、思いを伝えたいと心は必ず相手に伝わるんですね。プロの人たちのように曲の素晴らしさを理解してもらえるような演奏まではできないので、楽しさだけでも伝わればと考えています」

ドリームーンという名前は夢＝ドリームと月見さんの月＝ムーンの造語。

「名前を見ると、私の夢になってしまうのですが、そうではなく私と一緒に見る夢、色んな思いが実現するよという願いでつけました」と強調している。その夢は「楽しい」という気持ちと共に、地域の活性化につながり、それが確実にメンバーのものにもなりつつある。



自主コンサート「プラス大好き!!2」のリハーサル風景。このコンサートでは第2幕にTVゲーム「ドラゴンクエスト」の音楽も演奏された

■連絡先

〒085-0841 釧路市南大通3-1-8
ドリームーン
代表 月見和史
TEL: 0154-41-6663
URL:
<http://dreamoonkushiro.web.fc2.com/kushiro-moka-wp@mail.goo.ne.jp>

インフォメーション

◆道立市民活動促進センター事業のお知らせ◆

「市民活動中間支援センター研修会」 を開催しました

道内の中間支援センターのスタッフを対象に、全6日間（1日6時間、計36時間）、市民活動団体を支援するための知識や技能を身につけることを目的に開催しました。

札幌市の中間支援センターをはじめ、江別市、旭川市、登別市、室蘭市、函館市、北見市、釧路市など道内各地からご参加いただきました。

受講者からは「業務上大変役に立った」「会議の進め方やファシリテーショングラフィックは相談対応等でも活用が出来る」「他の中間支援センターのことがわかり、仲間と知り合えたことが良かった」「相談に応えるためには、多くの引き出しを持つ必要があることがわかった」などの感想がありました。

受講者のみなさん、お疲れさまでした。

第1日 平成25年7月1日（月）
テーマ「会議の進め方」
「ファシリテーション・グラフィック」



第2日 平成25年7月25日（木）
テーマ「NPOの基礎、NPO法人設立申請書類」
「認定NPO法人」
「認定NPO法人の事例」



第3日 平成25年9月10日（火）
テーマ「NPOマネジメント（相談対応）」
「NPOマネジメント（自主財源率を高めるために）」



第4日 平成25年10月25日（金）
テーマ「予算書、決算書の書き方、計算書の見方」
「全国の中間支援団体の現状」



第5日 平成25年11月22日（金）
テーマ「企業との協働」
「ファンドレイジング」



第6日 平成25年12月12日（木）
テーマ「社会保険・労務管理」
「ふりかえり」



◆ 助成金情報 ◆

●一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団● 第22回公募

「住まいとコミュニティづくり活動助成」

住まいづくり・まちづくり・地域づくりのNPO・市民活動助成金・支援プログラム

年度を単位とした活動を支援するもので、1年間の活動に助成を行います。

■助成対象団体

営利を目的としない民間団体(特定非営利活動法人もしくは任意団体)。

■助成対象活動

住まいとコミュニティづくりに関わる以下のような分野についての活動

- ・社会のニーズに対応した住まいづくり
- ・住環境の保全・向上
- ・地域コミュニティの創造・活性化
- ・安全で安心して暮らせる地域の実現
- ・その他、豊かな居住環境の実現につながる活動

■助成金額

1件あたり100万円を上限とします。

*助成額は、申し込みいただいた金額通りとならない場合もあります。

■応募期限：2014年1月15日(水)

■応募先：

一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団

TEL：03-6809-1408

FAX：03-6809-1438

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい

<http://www.hc-zaidan.or.jp/>

●一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会● 「第15回社会貢献基金助成」

この基金は、地域の種々の災害の救済、社会福祉事業、環境保全事業、国際協力など社会貢献活動を行う各種団体等への助成、並びに社会貢献に資する調査・研究を目的とした事業に対する助成を行い、以て日本の生活文化と地域社会の発展に寄与することを目的としています。

■助成対象事業

- (1) 研究助成事業
- (2) 高齢者福祉事業
- (3) 障害者福祉事業
- (4) 児童福祉事業
- (5) 環境・文化財保全事業
- (6) 国際協力・交流事業

■助成金額

総額およそ10,000千円を目途とし助成を行います。

(1件当たりの助成額上限は2,000千円とします。但し、研究助成事業においては、1,000千円を上限とします。)

■応募期限：2014年2月28日(金)

■応募先：一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会

社会貢献基金 運営事務局

TEL：03-3596-0061

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい。

<http://www.zengokyo.or.jp/social/index.html>

●一般財団法人セブンイレブン記念財団● 「2014年度公募助成」

セブンイレブン店頭でお客様よりお寄せいただいた募金をもとに“環境”をテーマに活動している市民団体を支援する制度です。

■助成の種類

- ・地球温暖化対策助成
(1団体あたり上限200万円・原則3年間継続)
- ・活動助成
(1団体あたり上限なし・総額7000万円・1年間)
- ・自立事業助成
(1団体あたり上限400万円・原則3年間継続)
- ・清掃助成
(1団体あたり上限30万円・総額500万円)
- ・植花助成
(1団体あたり上限50万円・総額2500万円)

■応募期限：2014年1月20日(月)

■応募先：一般財団法人セブンイレブン記念財団

TEL：03-6238-3872

FAX：03-3261-2513

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい。

<http://www.7midori.org/>

●公益財団法人日立環境財団●

「平成26年度(第13回)環境NPO助成」

「環境と経済との統合に資する活動」および「環境問題の解決に資する科学・技術的活動」を行うNPO/NGO・任意団体への助成事業を行っています。

■助成対象となる活動

- ・「環境と経済との統合に資する活動」
循環型経済社会実現への取組みなど
- ・「環境問題の解決に資する科学・技術的活動」
自然エネルギーの活用、環境に有効な科学技術の検討など

■助成金額

1件あたり150万円を限度(総額800万円)

■応募資格

- (1) 特定非営利活動促進法(NPO法)第10条の規定にもとづき設立された国内の法人
- (2) 環境分野での実践活動実績(再委託や、第三者の活動支援を主たる目的とする活動は除く)を有する国内の任意団体
- (3) 財団法人、社団法人等、上記(1)、(2)に該当しない法人は応募できません

■応募期限：2014年1月17日(金)

■応募先：公益財団法人日立環境財団

TEL：03-5221-6677

FAX：03-5221-6680

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい。

<http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/index.html>

今回の掲載情報以外の助成金情報や北海道庁からの役立つ情報なども随時更新中です。ぜひアクセスして下さい。

◎ 北海道立市民活動促進センターのホームページ

<http://www.do-shiminkatsudo.jp/>